

本時案

(1) 題目 「アジアの列強をめざして」

(2) ねらい 帝国主義による列強のアジア進出という世界情勢と条約改正の関連を、領事裁判権の撤廃についてその要因をランキングすることを通して、「列強の思惑」「日本が立憲国家となったこと」、「条約改正への人々の努力」という視点で考えた結果を書き表したり、発表したりできる。

(3) 展開

学習活動	配時	指導上の留意点	備考
1. 本時のめあてを知る。	7	○本時のめあて・見通しを知らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">国際情勢と条約改正の関連をランキングの理由を書くことで考察することができる。(3つ視点から考えることができる)</div> ○本時の学習する時代の世界情勢として、1910年代の世界地図から「アジア・アフリカの多くの国々が列強の植民地となっていること」、ヨーロッパ諸国の力関係の風刺画から、ロシアの南下を読みとらせる。	ワークシート 【資料活用の技能】
2. 1894年に領事裁判権が撤廃されたことを年表で確認し、それに対する影響として、3つの要因をランキングし、ワークシートに記入する。	10	○1894年に領事裁判権が撤廃されたことを年表で確認させたうえで、3つの要因を既習事項・教科書・ワークシートの資料をもとにランキングさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">領事裁判権の撤廃に影響をあたえた順は？</div> 3つの要因 A. この当時、イギリスとロシアが対立していた B. 日本が条約改正に努力を続けたこと C. 日本が憲法や法律を制定したこと 本時のめあては、「ランキングの理由をワークシートに書くことができる」より、記入に時間がかかっている生徒に対して、机間支援で助言し、記入を促す。<「C基準の生徒支援」>	<自己存在感> 【思考・判断・表現】
3. ランキングとその判断理由を班内で意見交流し、班としてのランキングを完成させる。	13	○班で意見交流させ、班としてのランキング結果を黒板にはらせる。 結論が早く出た班には、判断理由を黒板に簡潔に板書させる。	班 ホワイトボード 3枚のカード 【思考・判断】 <共感的関係> <自己存在感>
4. ランキングの判断理由を発表したり、級友の意見を聞いたりした後、再度ランキングする。	15	○いくつかの班に判断理由を発表させる。 ○2回目のランキングをさせる。	個 <共感的関係> 【思考・判断】
5. 授業者の授業評価と次時の予告を聞く。	5	○本時の学習に関する評価と本時の学習内容である「朝鮮をめぐる争い」を次回予告と絡ませて聞かせる。	<自己決定> 【思考・判断】